



【おうち英語】わが家の子どものための国語力

今日はおうち英語を実践する上で
気になる方も多いのではないかと思います
おうち英語と母国語についての note を
ご紹介してみたいと思います。

世に根強くある早期英語教育反対論。
その反対論の根拠となるものは、
「英語を小さなころから取り入れると、
母国語（日本語）習得に悪影響をもたらし、日本語習得が遅れる」
というものですよね。

おうち英語を始める上で、
もしくは実際におうち英語に取り組んでおられる方の中にも、
英語の日本語にもたらす影響についてご心配な方が多いのではないかと思います。

実は私もその一人で、これまでおうち英語に取り組む上で、
日本語への影響には絶えず最大限の気を配ってきました。

子どもが英語を話す姿に興奮し、
思わずアクセルを踏み込みそうになった瞬間もありましたが、
わが家の場合は住環境や経済面がそれを許さないところがあって
思いとどまることができ、暴走してしまうことなく今に至ります。

それでも、明らかに日本語優位な偏重バイリンガルではありますが、
一定の英語を英語で理解できるまでに育ちました。

今日はわが家の子どもの
現在の日本語能力、そして
おうち英語が母語に与えた
影響についてお話ししてみたいと思います。

英検のように日本語は検定を受験するわけではないので、
子どもたちの日本語能力目安を伝えるのは難しいのですが、
一言で言うなら
「日本の公教育を学校で受けるに困っていないレベル」
と言いましょうか。
年相応とも思います。

文学的な才能が光ることもありませんので、
難解な論説文などの日本語を楽々と読みこなしたり、
文豪のような文才があるわけではありませんが(あったらスゴイ)、
学校のテストですとか模試などでは
得意科目と言って差し支えない点数を取ることができています。

息子の場合、ディスレクシア的などころから、
深読みし過ぎて失点してしまったり、
漢字の書き間違いなどは散見されますが、
それでも極端に国語ができないわけではありません。

また日頃の私との会話や家族間での会話においても、
諺や慣用句的な表現を会話の中に織り交ぜてきたりすることもあり、
特段、語彙が貧困であるとか言い回しが不自然だと思ったことはありません。

そのようなところから
わが子二人の母語は明らかに日本語であり、
英語は残念ながら母語である日本語同等にまでは育ってないとも言えますが、
日本の公立の小中高に進学すると決めた時点で、
純粋なバイリンガルレベルにまで到達することを
我が家は断念していたとも言えます。

やり過ぎてしまって取り返しのつかないことになるリスクは負わず、
常に安全パイを選択することを是としてきたのです。

そうしてきたのは、私の個人的な経験から、
英語を本業とするのではなく、
何か自分の興味に即したものを将来の専攻とし、
英語はその専攻にプラス α の位置づけで使って欲しいという思いがあり、
将来希望する専攻分野・大学に進めるだけの学力を
付けて欲しいと願ってきました。

その私の思いは子どもに確かに伝わっているようで、
子どもにとっての英語はあくまで+ α であり、
特に得意だとか好きという意識もないようで、
自分の将来の夢を叶えるために
他教科の勉強の方に力を注いでいるのが現状です。

その他教科の勉強も、国語だけでなく、
すべての教科で必要とされるのは絶対的に国語力であり、
そういう面で子どもたちが中・高校生になった今、
おうち英語の為に母語である日本語を犠牲にしてこなくて良かったと思っています。

母語がしっかりと育たず、
2つの言語のどちらでも日常会話はできるものの、
抽象的な内容を伝達したり理解したりできず、
どちらも学習言語としては中途半端になってしまう状態は
セミリンガルと呼ばれますが、
このセミリンガルの問題はおうち英語において
非常にセンシティブな問題と言えます。

断片的な情報だけで
「セミリンガルにならないでしょうからもっと英語をやっても大丈夫」
とも言えませんし、
「もっと英語を控えないとセミリンガルになりますよ」
と無責任なことも言うことができないのです。

ただ一つおうち英語に関わる者として伝えておきたいことは、

「おうち英語を続ける上で
頭の片隅には必ずセミリンガルのことは入れておいてください」

ということです。

一般的に「あれ、この子日本語がちょっと・・・?」と
日本語の力の弱さが表面化してくるのは
小2~小3以降ぐらいなのではないかと思います。

そこまでは子どもの日常会話で話す語彙も
それほど豊富ではありませんし、
学校の授業内容や読む本もそれほど抽象的なものではないため、
目立って日本語の問題が表に出てくることは
少ないのではないかと思います。

しかし、小学校も中学年以降になってくると、
徐々に思考力が求められる内容となっていくため、
日本語が学習言語にまで成長していないと
いろいろな問題に直面することになってきます。

この問題が深刻なのは、
問題が表面化してから
日本語を学習言語レベルまで持っていくのが相当大変で
子どもに大きな負担を強いることになるということです。

おうち英語の英語習得におけるメリットは
時間を味方にして
人間に生まれつき備わっている言語習得能力を
最大限に生かしていくところ。

それは母語となる日本語においても違いはありません。

確かな言語能力を育てることは
一朝一夕にはなしえないことだと思っています。

そう考えると、

母語を確立させるだけの言語プロセスを取り戻す労力が
大変なものになることは想像に難しくなく。

母語の確立が遅れると学習に多大な影響を与え、
その遅れが取り戻せないとなってしまうと、
結果的に子どもの将来の選択肢を奪うことにもなりかねません。

子どもの将来のためと思って始めた英語が
逆に子供の将来の選択を狭めることになってしまうとしたら、
それはなんと皮肉なことでしょうか。

やり方によってはそのような危険性を孕んでいることを知っている身としては、
「英語話せたら超カッコよくないっすか〜。
日本語なんて日本に住んでりゃ誰だって
話せるようになりますから心配なしっす!
もうドンドンドン英語やっちゃおうぜ! イェーイ!」
(この口調は誰をイメージしてるねん・・・)
と悪魔に魂を売るようなことは口が裂けても言えません。。

しかし、一方、
おうち英語が国語力に負の影響を与えることがないケースが
わが子や運営するオンライン英会話スクールを
ご利用くださっている方々の例から確かに実在するということが
知っているのもこれまた事実で。

何事もリスクを恐れ何も行動しなければ
失敗しないかわりに成功もしないのと同じように、
【早期英語=セミリンガル】と早合点し、
おうち英語を始められることを見送ったり、
おうち英語を始めても子どもの日本語の発達をただ漠然と不安に思い
早々に完全撤退してしまうのはモットイナイことなのではないかとも思います。

両立させる方法は確かにあるのだと思います。

おうち英語の最大の長所は
各家庭・子どもの事情に合わせて、
完全オーダーメイドで取り組むことができることです。

私がこれまでのわが家のおうち英語で
常に落としどころを探ってきたように、
お子さんの様子を見ながら
それぞれがその時その時の最善の安全パイを探っていけば
母語を大切にしながら
英語を母国語方式で身に付けていくことは
十分可能なのではないかと思います。

大切なのは、セミリンガルの問題を頭の片隅に置きつつ、
目の前の子どもの様子を見ながら
絶妙な塩梅でさじ加減していくことかと。

家庭環境も子どもの個性も違うため、
わが家の安全パイが万人に有効な安全パイとはならないというのも
しっかりとお伝えし、
私のマネをすればいいことではないとも断言しておきます。

目分量で料理してしまう家庭料理のように、
その目分量を教えてもらったとしても
同じおふくろの味が作れるかというとそうでもないですよ。

それと同じです。

日本語も英語も大事。

そのスタンスで、各家庭で両立させる方法を探る過程を
オンラインレッスンなどを通じてこれからもサポートし続けていきたいと思っております♪